



## 伊仙町町制施行 60 周年記念式典



## 式 次 第

令和5年4月15日(土) 10:00~12:00  
伊仙町総合体育館

開式のことば

国歌斉唱

伊仙町PR動画上映

式辞

伊仙町長 大久保 明

町制功勞者表彰・感謝状

来賓祝辞

鹿児島県知事 塩田 康一 様  
鹿児島県議会議長 田之上 耕三 様  
伊仙町議会議長 前 徹志 様

記念論文「未来の伊仙町に期待すること」

最優秀賞 「私の思う伊仙町」 松岡 天真 さん  
優 秀 賞 「より活気のある私の町」 牧園 優奈 さん

祝電披露

記念対談「伊仙町から宇宙へ夢を乗せて」

閉会のことば

## 町制施行60周年記念表彰者

### 黄綬褒章

樺山 博良

### 瑞宝双光章

山田 哲男

### 自治功勞

常 隆之 上木 勲 琉 理人 伊藤 一弘  
永岡 良一 美島 盛秀 樺山 一 嶺 津太郎  
實 専太郎 井上 彦也 重村 宏明

### 教育功勞

中野 幸次 直 章一郎 大山惣二郎 山田 哲男  
義岡 明雄 迫田 功夫 福 章夫 窪田 清  
大山 典男

### 社会教育功勞

松田 りえ子 富 吉次 富山 大生 田中 大陸  
直江 朝日 川本 萌香 幸山 忠重

### 産業経済功勞

水本 昭士 荻田 武志 盛 猛朗 (有)大竹興産  
平山 国男 本田久美子 森 三江子 迫田 徳子

### 社会福祉衛生功勞

芳 文雄 勝 昭市 義山 園枝 作田 隆司  
平 陽子 稲 トキ子 前田 ヨシ 山本 絹枝  
溝口 和枝 荻田 ミツエ 作井 澄子 松本 美江子  
義岡 節巳 米山 寿八郎 時 孝 富 啓子

NPO法人徳之島虹の会

### 感謝状

廣瀬 玲子 幸山 忠蔵

以上54名及び2組織

## 記念論文

# 「未来の伊仙町へ期待すること」

## 記念作文最優秀作品 最優秀賞

大島高等学校 一年 松岡 天真

### 「私の思う伊仙町」



私は高校進学のため、この春初めて徳之島を離れました。今、船で四時間という距離にある隣の島の高校に通いながら、徳之島の雰囲気とあまり変わらず、楽しく高校生活を送れています。でも毎日を通り過ぎていく中で、少しずつ徳之島の伊仙町の良さが分かった気がしました。

一つ目は人です。奄美の人も、伊仙町の人も心優しい人が多いけど、伊仙町の方がより温厚で明るく、元気な人が多いのではないかと思います。徳之島には闘牛という昔から続く伝統行事があり、自分で大切に育てた

牛を闘わせるという、徳之島ならではの楽しみがあります。そのせいか、伊仙町の人でも明るく元気で、情熱的な人が多いと思います。これは伊仙町の一つのいいところだと思います。また、伊仙町の人はお祝い事にとっても力を注ぎます。赤ちゃんの生誕祝い、小学一年生の入学祝い、棟上げの際のお祝いなど、様々なお祝いで各家々を回って、みんなで祝福します。これも他の島々にはあまりない、素晴らしい文化だと思います。

二つ目は、昔から続いているお店をあまり潰したりせずに、今もなお営業し続けているところだと思います。奄美を見ると、小さな商店やあまり人気のないお店などを撤去して、そこにダイソーやオシャレなカフェを作ったり、海を埋め立てて大きなホテルやパチンコ屋などを作ったりしています。若い人が喜ぶようなお店を作って人口を増やすのはいい考えとも思いますが、今までであったものを壊していってしまうと、奄美にあった良さがなくなってしまうのではないかなと思います。伊仙町も、閉店してしまった商店などはあるけれど、小さな集落にもまだ数多く残っており、そこが伊仙らしい良い所だかなと思います。

これらのことから、今後伊仙町に期待することは、このままの人・自然・情景などが何十年も続いていって欲しいことです。奄美のように海を埋め立てて、大きなホテルを作ったり、若い人などに人気のあるお店ばかりを作ったりするのもいいけれど、今のままの、伊仙町ならではの、雰囲気や情景が今後も続いていくことを期待します。そこから改めて生まれ育った伊仙町のことを考えると、将来は必ず帰ってきたいと思っているし、その頃にはもっと人が増えて活性化して欲しいなと思っています。私も島に帰った時に、少しでもその力になれるような人になりたいと思っています。

伊仙町町制施行60周年記念誌作成委員会の中で、16歳から25歳の若者の声を載せる事が決まり「未来の伊仙町への期待すること」と題して論文を募集しました。本式典では論文部門の最優秀賞2名の作品をご紹介します。

## 記念作文最優秀作品 優秀賞

徳之島高等学校 三年 牧園 優奈

### 「より活気のある私の町」



私が未来の伊仙町に期待することは、町も町民も活気のある地域になることです。伊仙町には明るく元気な子ども、そして私たちを優しく見守ってくれるおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいます。自分の子どもだから、自分の孫だからなどは関係なく、地域みんなで子どもを育て、お年寄りを支えるという魅力があります。これは、都会にはない伊仙町の良さです。

そこで、町民が一体となって参加できるイベントを開催することで、より交流の場が増え、町も町民も活気のある地域になると思います。例えば、老若男女が参加できるマラソン大会があります。コロナウイルスが流行する前は、町民体育祭や町の駅伝大会が開催されていましたが、最終的に順位が決まる競争形式なので、始めから出場する選手が決まっていることが多く、なかなか町民全員が参加することができません。町民マラソンだとゴールすることを目標に自分のペースで走ることができるため、幅広い年代の町民が気軽に参加できます。伊仙町の豊かな自然の中を家族同士、友達同士、近所の人同士などで走ることで、コミュニケーションや地域の人との交流が生まれます。さらに、健康づくりにもつながり、「長寿の伊仙町」をめざせるのではないのでしょうか。走者側ではなく、ボランティアで運営側として町民マラソンに参加することももちろん可能で、走者と走者、運営者と運営者、走者と運営者など、さまざまな人たちで同じ伊仙町に住む人たちと出会うことができます。マラソンが終わる頃には、町民同士の関係が広がり、たくさん笑顔が見られると思います。

時代の流れに伴い、少子高齢化が進んでいます。島を離れる若者も多く、私も高校を卒業したら進学のために島立ちをします。周りの友達もほとんどの人が島を離れます。島を離れたら島に帰ってくるつもりはないと考えている人もいます。よりレベルの高い場所で勉強やスポーツに励みたいという思いから、早い段階で本土に上がる子どももいます。だからこそ、島を出るまでの間だけでも地域の人との強いつながりを作ることは大切だと思います。もしかすると、もう少し島に残ろうと考える人も出てくるかもしれません。

このように、町民全員で参加できるイベントを開催することにはメリットがたくさんあります。町も町民も活気のある伊仙町。それが、私が未来の伊仙町に期待することです。

# 町制施行60周年記念対談講演



日本マルコ株式会社  
代表取締役会長 小坂橋 博行 氏

## 伊仙町から宇宙へ 夢をのせて



伊仙町長 大久保 明

- ・今脚光を浴びている宇宙産業。世界規模でニーズのある部品製造拠点としてなぜ、伊仙町が選ばれたのか。
- ・新型コロナウイルス感染拡大後の新たな生活様式、世界情勢の緊迫、食料品やエネルギーの値上げなどの急激な社会変化。その中で私たちが明るい未来を作るために、何を誇りとするべきか。

さまざまなテーマについて、日本マルコ株式会社代表取締役会長の小坂橋博行氏をお迎えし、大久保明伊仙町長との対談を行います。

### 日本マルコ株式会社とは

日本マルコ株式会社は、昭和53年に創業し、航空・防衛・宇宙分野に特化したコネクタやハーネス等の部品の製造・販売を行っています。

平成16年には航空宇宙分野のISO認証を所得、平成20年には（独）宇宙航空研究開発機構（JAXA）の厳しい基準をクリアし認定を受けており、これまで、国際宇宙ステーションに関連する「H-2A/Bロケット」「きぼう」「こうのとり」をはじめ、小惑星探査機「はやぶさ」、ロケット「イプシロン」、気象衛星「ひまわり」など、多数の宇宙関連プロジェクトへ重要な製品を提供してきました。

平成27年10月、経営理念として地域振興を掲げる同社の意向と合致したことから、本町と立地に関する協定を締結しました。翌年4月に日本マルコ株式会社伊仙工場(伊仙町糸木名)を操業し、コネクタ、ハーネス、電子機器、部品の製造等を行っています。これにより、本町の地域における雇用の創出、活性化はもとより、地域経済の浮揚発展に寄与しています。

# 町制施行60周年記念展示

会 場:伊仙町総合体育館サブアリーナ

会 期:令和5年4月15日(土)~22日(土)

「伊仙町町制施行60周年記念式典」と合わせ、式典会場となりの総合体育館サブアリーナにて、「伊仙町町制施行60周年記念展示」を行います。

奄美群島の日本復帰運動を主導した面縄出身の泉芳朗氏により書かれた日記、手紙、未発表の小説、詩の展示をはじめ、伊仙町の自然や歴史、子供たちの絵画展を一堂に見ることが出来る貴重な機会です。

会場には飲食スペースもありますので、お子様連れの方もお気軽に足を運んでください。



### カムイヤキ展示

11世紀から14世紀頃に伊仙町で生産され、南九州から琉球列島全域に流通していた焼き物、カムイヤキ。その分布域は後の琉球王国の版図と重なる、貴重な歴史を物語る

### 60周年の歩み

昭和37年に伊仙村から伊仙町へ生まれ変わってから60年、戦後の発展と伊仙町独自の歩みを振り返る

### 泉芳朗の足跡

奄美群島の日本復帰運動を主導した面縄出身の泉芳朗氏により、復帰前に書かれた日記を中心に、直筆の手紙や詩、小説など、歴史的にも貴重な史料を展示。

### 徳之島の自然

世界自然遺産登録を機に、伊仙町の暮らしと文化を作り上げる基盤となった足元に広がる自然を見つめる

### 闘牛文化

江戸時代に遡り「なくさみ」「牛トロシ」と呼ばれ、農閑期や行事ごとの娯楽として生まれた闘牛。その歴史や過去の名勝負を展示

### 小学生による 絵画展

伊仙町の8つの小学校に通う1年生から4年生が、住みたい町をイメージして自由に描いた絵画展

ふるさと納税・移住促進ブース・休憩スペース